

三次市立学校再配置検討委員会答申の骨子

三次市教育委員会

【学校再配置検討委員会答申の骨子】(平成15年8月29日 答申)

高齢化・少子化が急速に進む中，市内の児童・生徒数も減少の一途をたどっており，特に周辺部の小学校においては，以前から複式学級の編成を余儀なくされ，教育活動や学校運営に支障を来している実態がある。

児童が心身ともに発達し，自己形成がなされる重要な時期において，健全な発育・育成に向けた教育環境を整備・充実することは教育行政の責務である。この場合，最も重視すべきは，「次代を担う児童・生徒をどのようにして，よりよい教育環境のもとで育むか」であり，「地域拠点としての学校」という視点は第二義的に考える必要がある。

21世紀の三次市の教育のあるべき姿を展望したとき，他地域の事例等から勘案すると，全校の児童数が20人以下となった場合は，速やかに学校再配置の検討に入ることを強く提言する。

【教育委員会議における確認事項】(平成15年11月11日 開催)

学校再配置検討委員会の答申を受けて，9月・10月の教育委員会議で協議・検討した内容をもとに，次の事項について確認した。

学校再配置に関する方針

- (1) 粟屋西小学校については，平成16年4月1日から通学区域を自由化 [注]し，平成17年4月1日に粟屋小学校に統廃合する。
- (2) 三次西小学校，青河小学校，志和地小学校については，平成16年4月1日から通学区域を自由化 [注]し，2年間の児童の推移をみて改めて統廃合の検討を行う。

[注]ここでの「通学区域の自由化」とは，三次西・粟屋西・青河・志和地の4小学校について，全学年を対象に通学区域を自由化し，希望すれば市内のどの区域からでもこの4校に通学できることとするとともに，当該4校の児童は，希望すれば市内のどの区域の学校にも通学できることとしたものである。

【参考数値】(平成15年11月1日現在の全校児童数)

三次西小	17人		
粟屋西小	9人		
青河小	27人(H21.4.1見込 18人)	H21.5.1実数値	28人
志和地小	29人(H18.4.1見込 16人)	H18.4.1実数値	15人

【学校再配置の検討を行うとする20人の根拠について】

学校再配置検討委員会の中では，「20人」の具体的な根拠について深く議論されていないが，当時の複式学級を有する各小学校の在籍児童数が概ね20人前後であったため，複式学級解消に向けての1つの目安として出された数字である。